

平成31年度 十津川高等学校 学校評価総括表

教育方針		十津川の雄大な自然と地域の温もりの中で、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を目指す。						総合 評価
教育目標		多様な学習に取り組み、生徒が自ら発案し、自ら実践できる力を育成する。						
		生徒や地域住民の生命と未来を守るため、防災教育及びキャリア教育を推進する。						
		生徒・教職員相互に強固な信頼関係を築き、規範意識やコミュニケーション能力を育成する。						
		学習活動の中で生徒がやりがいを感じ、自己の能力に自信を持って行動することで、将来、地域社会に貢献できる能力を育成する。						
○平成30年度の成果と課題		本年度重点目標				取組		
放課後および家庭学習時間の増加を図り、確かな学力の習得を目指す。そのために、朝の読書活動や放課後の学習に取り組む。全ての活動において主体的で協働的に取り組む姿勢を育み、自己有用感を高める。併せて全校生徒が自発的に挨拶する指導を行う。観点別通知表を発行できるよう記点票等の諸帳簿を完成させる。特別な支援を要する生徒への共通理解を図ると共に、研修を充実して、教職員の資質向上を図る。防災意識の向上に向け実情に応じた訓練等を実施する。	基礎学力の定着を図るとともに、確かな学力の習得に向けた学習態度を養う。		生徒の実態を的確に把握し、創意工夫した学習指導に取り組む。				B	
	基本的生活習慣の定着と規範意識の向上に向けた自律に基づく行動力を育成する。		挨拶指導の徹底等、日常的な関わりの中で基礎的人間力の向上に取り組む。					
	命を大切にし、他者への思いやりをもった豊かな心を育む。		あらゆる教育活動を通して「お互いに支え合って生きること」の大切さを考えさせる。					
	特別支援教育や障害に関する理解を教職員間で一層深める。		研修等さまざまな機会を通して共通理解を図り、特別支援教育に取り組む。					
実施	具体的目標(評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)		学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	
授業 指導 ・ 学習 研究	個別の学習時間を確保させる。	<ul style="list-style-type: none"> 学習教材を計画的に生徒へ提供することで、学習習慣を身につけさせるとともに、進路実現に向けた取組の一環とする。 放課後の学習指導や学習教材の提供、学習場所の確保について、各分掌・学年・教科と連携して実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 曜日ごとに国語、地歴公民、数学、理科、英語の各教科担当者から授業に関連した課題を提供いただき、授業外の学習時間の70分確保を目指す。 各学年で調査前の自習時間計画を実施していただく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で自習課題を提供していただいたが、全生徒の平均学習時間は58分であった。 調査前の自習時間計画を全学年で実施していただいた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で曜日ごとに学習教材を提供していただき、3学期の平均学習時間は40分で、1学期から後退した。 各学年で調査前の自習時間を計画していただき、各学期の欠点科目数は昨年より減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生だけでなく、1、2年生にも進路に向けた意識付けをすることで、学習時間の増加に繋げたい。 学年に依頼し、個人ごとに学習計画を視覚化した表等の作成を試みる。
	各コースに応じた有効な教育課程を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 学校設定科目を始めとする、コースの特色を活かした、進路につながるカリキュラムを検討する。 カリキュラムマネジメントを実践し、効率的な学習指導を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校設定科目「ふるさと学」の開講に向けた研修を実施する。 各教科で関連する学習項目について、教育課程検討委員会やプロジェクト会議でとりまとめる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「災害ボランティア」の職員研修を実施した。 各教科でカリキュラムマネジメントシートに記入していただき教職員間で確認した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校安全事業と関連付けて「ふるさと学」に関する校内研修を2回実施し、関連教員が校外の研修に4回参加できた。 各教科に力いただいたカリキュラムマネジメントシートをもとに、「ふるさと学」を含めて、効率的な学習指導を計画する基盤を作った。 	<ul style="list-style-type: none"> 各科目の月ごとの学習項目を表に入力してもらい、全科目で横断的な学習を計画できる体勢を整える。 「ふるさと学」を年間計画に沿って実施し、特色ある教育課程のきっかけ作りを行う。
生徒 指導	生徒が規範意識を高めることができる指導を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ルールを遵守することの意義を、生徒にわかりやすく説明し、理解させる。また、人権教育部やスクールカウンセラー等との連携を密にし、個々の生徒の発達段階に応じた適切な指導を粘り強く行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者召致を必要とする問題行動の件数を年間5件以下にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者召致を必要とする問題行動の発生件数は3件(9/20現在)あった。また、規定に従った服装でなかったり、夏期休業中に頭髪を染めたりするなど、規範意識の低い生徒も見受けられる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者召致を必要とする問題行動は7件あり、昨年より1件増加した。警察等関係機関と連携を図らなければならない事象も発生するなど、生徒の規範意識を高めることができなかった。 コミュニケーション能力不足に起因するトラブルも多く見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の行動や発言に気を配り、些細なことも見逃さないよう心掛ける。 特別指導を行う際の指導体制を再構築し、多角的・多面的に生徒を指導する。 LHR等を活用してコミュニケーション能力を高めさせる活動をより一層充実する。
	生徒が主体となって活動できるよう支援する。	<ul style="list-style-type: none"> 行事の精選を行うとともに委員会活動等の活性化を図り、生徒会役員を中心に全生徒が主体的に活動できる環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 週に一度実施するあいさつ運動に全生徒が参加するようにする。 生徒会が中心となって実施する行事における生徒の満足度を75%以上にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動に参加した生徒からは前向きな感想を聞くことが多い。 中高生徒交流会など行事に積極的に参加している生徒が多い。 	B	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動には54名が参加した。 生徒会が中心となって実施する行事に主体的に参加し、充実した表情を浮かべる生徒が非常に多かった。 学校行事の実施と授業時数の確保との両立や、増え続ける教員の負担をどのように軽減するか等の課題が残った。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の実施の有無や実施時期を再検討するとともに、質の高い学校行事の実施に向けて生徒会役員との連携を密にする。
キャリア 教育 ・ 進路 指導	進路実現に向けた環境整備をする。	<ul style="list-style-type: none"> インターネット講義を有効利用できるように、学力向上委員会が具体的方策を策定する。 面接指導の強化を図る。校外講師等を活用し動機付けをする。早期の教員研修等を校内で実施し、意思統一・情報の共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度末のアンケートで使用満足度が70%以上になるように取組をする。 面接練習が10回以下の生徒をなくす。 教員の振り返りを行い、自己評価を5段階で行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度スタディーサブリ受講者は14名で、学力向上推進チームを中心に活動を展開している。 就職希望者は今年度7名であった。面接練習に関しては全員が10回以上実施することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> スタディーサブリは役に立ったと思う生徒が66.6%であった。数回受講生への指導を行ったが、参加しない生徒もおり、4人の3年生を除いて次年度も利用しようと思う生徒は4名であった。 ほとんどの生徒が10回以上の面接練習ができたが、クリアできなかった一人が1回目の応募で不採用となった。 	<ul style="list-style-type: none"> スタディーサブリの申し込みに際して、前年度の状況や内容をしっかりと伝えた上で受講の意思決定をさせる必要がある。利用している者は、成果を感じているので次年度も継続したい。 教員側の熱意が伝わりにくい生徒もいるので、先輩たちの失敗を伝えるとともに、複数の教員からの指導を徹底する必要がある。
	キャリア教育を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度開始したフォークリフト講習の定着。各種検定受験者を増やす。 インターンシップを充実させるために、教育研究所主催のプログラムに積極的に参加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> フォークリフト講習に関しては、10名程度の合格者が出ることを目標とする。 昨年度の受験者延べ人数を超える。 インターンシップに関しては左記のプログラムに1名以上の生徒が参加できるように案内をする。また、村内については例年通り数名の参加を目標とする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> フォークリフトは今年度7名が受講し、全員合格できた。 インターンシップは村内の6事業所に6名が参加し、実施した。教育研究所のプログラムには現在のところ参加者はいない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> フォークリフトは村民の方も本校での講習に参加され、予定通り実施し、全員が合格できた。 インターンシップでは体調不良のため1名の不参加者が出たが、計画通り実施できた。 教育研究所のプログラムには今年度も参加生徒はいなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職時に資格を使うことのできる企業に就職する生徒もおり、次年度も継続実施の予定である。 教育研究所のプログラムは遠隔地であるという理由が障害になりやほり参加しにくい状況である。
安全 環境	防災意識を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身を守るためにどのように行動していくべきかという考え方をしっかりと身に付けさせるため、生徒、教職員とともに防災についての考え方や知っておくべきことを学ぶ機会を設ける。 事後指導を必ず実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間2回避難訓練を実施する。 避難訓練を生徒に予告なしで実施し、日頃の防災意識を向上させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に地震の防災訓練を行った。2学期にも再度訓練を実施する予定である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 9月に緊急地震速報受診システムが設置された。12月と1月(無告知)に避難訓練を实地した。速やかに整理して避難することが出来た。実際の避難す引き場面でも、迅速に対応できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練の事後学習の時間をとる必要がある。予告なしでの避難訓練に慣れてきたのか緊張感がないため、実地の状況などに工夫が必要である。
	美化意識を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の美化意識向上に向け、整備美化委員会を中心に美化活動、美化啓発活動を行う。 整備美化委員で学校を回り、修繕箇所、清掃重点箇所を見つけ出し、改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間5回整備美化委員で校内美化活動を実施する。 整備美化委員主導で美化啓発活動を実施する。 学校の学習環境についてアンケートを実施し「学校がきれいになった」という回答の割合が50%以上となることを目指す。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 整備美化委員の活動が停滞しており、具体的に生徒が活動するように指導していく必要がある。ペットボトル・空き缶回収をまめにする必要があるので活動を進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は整備美化委員会による校内美化活動につながる活動はペットボトルの回収をしたが学年ごとに取り組みにばらつきがあった。アンケートを実施したが、「学校がきれいになった」と回答した生徒は65%だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の清掃に関する関心を高め、積極的に取り組む姿勢を育てるための手立てを設ける。

実施	具体的目標(評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)		学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	
人権教育	人権教育において差別やいじめ、嫌がらせのない学校づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> すべての生徒が快適な生活を送り、学習活動ができるよう努める。 身近な人間関係における人権意識を高め、社会で問題とされている事象についても目を向けさせていく。 計画的にホームルーム指導案を作成し、練って実践する。30年度より開始した人権を確かめあう日の取組を継続的に実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間5回程度、人権ホームルームを行い、その内容をまとめた「人権だより」を発行し、人権啓発に努める。 寮生自治会の話し合いの機会に、人権をテーマにした内容で寮生活について考えるよう勧める。 人権作文の回収率9割以上を目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に2回「人権だより」の発行や、毎月11日の「人権を確かめあう日」に教材を提供するなどして、人権啓発に努めた。 人権作文の回収率が9割を超えたが、完全回収を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 人権だよりの発行は3回だった。 毎月11日の「人権を確かめあう日」に教材を提供して、「人権啓発に努めた。さらに深く学習させるために振り返りの共有等を行うべきであった。 いじめや嫌がらせを教件認知した。皆が快適に生活できる学校にしなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権だよりを定期的、計画的に発行するべきであった。 「人権を確かめあう日」の教材研究と振り返りについて再考すべきである。 いじめや嫌がらせが起こらないよう、人権啓発やホームルームの展開をする。
	特別支援教育において個々の特性に応じた支援体制づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> 現在行っている支援体制のチェックを怠らず、これを基本にして個々の生徒に応じた支援のあり方をさらに考えていく。また、定期的に会議を持ち、生徒の実状を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育に関し、「支援の在り方」について検討し、実践を重ね、取組と成果との結びつきを全職員で検証する。 学期ごとに支援体制を確認し、年度末に向けてその方途の確立を目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとに支援の必要の有無を確認し、全教員で共有している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画等の作成が必要な生徒はいなかったが、配慮の必要な生徒は多数存在している。職員朝礼や職員会議等において、全職員の共通理解に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス、学年を中心にきめ細かく観察し、全職員で共通理解を図る。
文化情報	本校のPR活動の推進を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌や専門機関との連携を行い、新規のHPの移行作業を円滑に行う。移行後は、定期的に更新を図る。 効果的な広報方法を検証し、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化情報部を中心に各部活動や分掌等でのHPの移行作業を行い、1学期中の移行完了を目指す。 高校体験入学に参加する中学生の人数を前年比1.2倍となるよう目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1学期中に新規ホームページへの移行を完了した。現在、各部活動や分掌等と連携し、定期的に更新をしている。 体験入学参加生徒の人数は前年比約3割減となった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 新規ホームページに移行して以来、行事の報告をスムーズに行えた。また、部活動のページにおいても、大会の結果を即時に反映することができた。しかし、それ以外のページで発足当初のまま更新できていないページがある等、全体的な管理や確認ができていないことが課題である。 十分な広報活動ができず、夏の体験入学だけでなく、1月の学校説明会への参加者も昨年度より少なかった。 貸し出し冊数は約200冊に留まった。学級文庫の稼働率や新規図書購入がなかったことなどが原因ではないかと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ更新についての職員研修を開いたり、行事や部活動など、ページごとの更新担当を明確にしたりして、即時的な更新を図れるようにする。 まずは本校に興味をもってもらえることを目標として広報活動の内容の整理や、その成果等の検証を行い、広報活動を行っていく。 「読書離れ」という言葉でまとめるのではなく、具体的に借り易い状況であったり、蔵書のアナウンスなどを積極的に行ったりする必要がある。図書員と共に次年度は積極的な広報を行っていきたい。
	読書活動の推進を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 図書委員と連携し、生徒、教員の希望する図書の実美をはかたり、利用しやすい図書室を整備したりして、読書活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書の貸し出し冊数年間300冊を目標とする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の図書委員の当番を毎日行い、定期的に図書室の整備を行っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭終了後、アンケート調査を実施し、「満足できた」という旨の回答を90%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭終了後にとった生徒・教員アンケートの結果や、生徒数などの状況を考慮に入れながら、よりよい文化祭を開催できるよう目指す。
	生徒が主体となる文化祭を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 適宜文化委員会を行い、早期に文化祭に向けて取り組む。 文化委員をはじめ、生徒に文化祭の運営や舞台発表の司会等の役割を与え、文化祭を通して責任感や自己肯定感を高めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭終了後、アンケート調査を実施し、「満足できた」という旨の回答を90%以上とする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 現在、文化委員と連携し、文化祭実施に向けて準備を進めている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭終了後、アンケートを実施し、100%の生徒から「満足できた」という旨の回答を得ることができた。また、今年は1日目の展示巡回企画を見直し、生徒や教員から好評を得ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭終了後にとった生徒・教員アンケートの結果や、生徒数などの状況を考慮に入れながら、よりよい文化祭を開催できるよう目指す。
学校寮	基本的な生活習慣を身につけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の寮日課のもと、規則正しい生活習慣や生活リズムを身につけさせることで、安定した寮生活の定着を図る。また、日常生活においてはルールや規則を厳守させ、礼儀作法等の教育にも力を入れながら、対人コミュニケーション力の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 舎監担当教員や同部屋での上級生、寮生自治会生徒などが繰り返し指導することで、寮生全員が一つになり、目標・目的に向かって進めるような環境をつくる。 受動的な指導に代わり、寮生が物事を自発的に考え、判断し、行動できるよう促す。 	C	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる場面で健全な寮生活を継続するための確認をし、また指導するなど常に寮生の規範意識の向上に努めているものの、残念ながら小さなルール違反を繰り返す者が後を絶たない。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 舎監担当者と寮生自治会が中心となって健全な寮運営に努めてきたが、一部の秩序が乱れ、地域の期待を裏切ることとなった。その結果、残念ながら数名の者に対して退寮という厳しい処分を下した。 寮内での人間関係がうまく構築できずに悩み続け、帰宅する者がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 規則や舎監業務内容を含め、寮運営全般を見直すとともに寮生と保護者、教職員が同じ意識や目標を共有しながら、厳格な中にも魅力のある寮づくりを目指す。 寮生に対してさらに注意を払い、関心を深めていくことで、より細やかな指導や助言ができるよう努めていく。
	寮組織の見直しと、寮運営の改善をおこなう。	<ul style="list-style-type: none"> 寮舎監業務を見直すとともに、より効率よく運営できるよう組織のスマート化を図る。 寮費の取り扱いに関しては専門的な部門に委託し、金銭の受払やその収支等、寮費管理を確実なものにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な寮生や舎監(教員)、事務職員や調理員に対してアンケート調査を実施して寮生活、寮運営についての意見・感想・要望等を聞き取る。改善すべき点等を検討・実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 寮生の様子について、気づいた点や心配する事項などを全教職員から毎月報告してもらい、その情報を常に共有している。 1学期末の三者面談において、寮生保護者アンケートを実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 組織を見直すことで、その業務担当や役割が明確になり、また専門的に担当することでスムーズな運営につながった。 金銭管理(支出業務)の一部を事務室に委託することができ、来年度から運用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務内容等に関しては全教職員の共通理解と共通認識が必要不可欠であり、さらに統一した運営を目指す。 寮生や保護者からの意見や要望をも参考にしながら、見直す点や改善すべき部分があればその根拠をもとに検討していく。
第1学年	生活	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を確立させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻、欠席に丁寧に対応し、学校生活から規則正しい生活の実践に繋げる取組を行う。 宿題や課題、各種提出物等の期限を厳守させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の遅刻数が21回で、どの学年よりも多い。 課題の提出状況は担任の努力もあり良好で、1学期の欠点数が少なく収まった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒に遅刻が多くなる傾向があった。また、気持ちの面で短期間登校できない生徒もいた。 年間を通して、不登校数は少ない数に収まった。また、学習面で進級が危ぶまれ個別の対応が必要な生徒もいなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に学年会議をもつだけでなく、職朝後の学年打ち合わせを有効に活用することで、生徒の状況を学年全体で把握し対応したい。 継続した進路LHRの展開や個人面談を定期的に行い、担任と教科担当との連携も強化していく。
	学習	<ul style="list-style-type: none"> 進路目標にむけた、高校3年間のビジョンを描き、充実した高校生活を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業を大切にさせ、学習を中心に積極的な取組を促す。 卒業後の進路をイメージさせ、特にどのような分野を重点的に学習すべきかを自ら判断させる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 進路目標を立てる手立てをHRで実践している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 三者懇談で就職、進学希望について、全ての生徒に確認した。また、進路実現の取組について担任から各生徒に提案することができた。 学習計画や進路先等、具体的な内容には至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 短い期間の計画表を作成させ、毎時の授業はもちろん、予習や復習の重要性を伝えながら、自分の進路目標を具体的に設定するよう指導、サポートする。
第2学年	進路	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現(決定)にむけての本格的な準備と心構えを意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 希望の進路を実現するために「何を、いつまでに、どのようにすればいいか」等を計画させるとともに、情報収集や見学会への参加など積極的な行動ができるように指導する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進学や公務員等希望者は、学力向上コースでより高い学力を身に付けている。就職希望者もキャリアアップコースでビジネスマナー等を学び、仕事への関心を高めているが、進路に関して具体的な目標(企業名や職種、学校名や学部・学科等)はまだ明確にならない者が多い。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年生徒らが上級生の進路状況やその取組を身近で感じ取り、またクラス担任を中心とする教職員や家族、友人等に相談したり助言を受ける姿が多く見られた。全員とは言いがたいが、各自がある程度の進路目標を立てることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに綿密な計画を立てて、期日や期間を設定しながら継続した進路指導を進めていく。 四年制大学への進学希望者が新たに導入される入試システムに対応できるよう、引き続き研修・研鑽を重ねていく。
	学習	<ul style="list-style-type: none"> 自主的・主体的な学習習慣を身につけさせ、基礎学力のさらなる向上に結びつくような取組を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路(就職、進学)に対して明確な目標を持たせ、各教科から出される課題や宿題を期限内に提出させることはもちろん、各種検定試験や、模擬試験を積極的に受験するよう指導する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1学期末の成績不振生徒数は6名、延べ9科目で昨年度の同時期(8名、延べ17科目、評定不能1名)に比べ大幅に減ったが、まだまだ学習習慣が定着し学力が向上している者も少なく、今後も継続した指導が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> HR担任が成績面で気になる生徒をピックアップし、放課後に教室で学習させるなどを定期考査の2週間前から実施した。その結果、不振生徒数の減少につながった。 検定など各種試験の受験者数は、目標の半分ほどに止まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 成績不振者数(科目数)は減少したが、放課後学習にしてみても半ば強制的なものである。これが今後、自主的・主体的なものになっていくような方策を検討していく。 進路決定に向けて、資格取得などで自信をつけさせるとともに自己肯定感を体験させる。
第3学年	進路	<ul style="list-style-type: none"> 各自が希望の進路を実現するために、進路決定へのプランニングができるような指導をする。進路に関して生徒自らが積極的に探求し、行動するような環境を作り上げ、受け身にならないよう留意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活記録帳を活用し、行事や進路に向けての計画を立て実行できるようにする。アンケートをとり、半数以上の生徒が生活記録帳活用できることを目指す。 放課後学習時間を活用し、進路や将来に備える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生活記録帳の活用は48パーセントだった。具体的な活用方法の指示が必要であるが、活用できている者は上手に活用し、計画的に行動している。 放課後学習時間に行っている取り組みは、教科の学習ではないが将来に活用できる内容を学習させている。今後も継続したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 最終的な生活記録帳の活用率は70%だった。進路実現や計画的な学習に向けて活用している者が見られたことは良かった。しかし、全く活用していない者も見られたので、全体で活用できるようにしなければならないかった。 放課後学習では、教科、科目の授業以外の内容を学習させた。放課後学習時間は3年生にとって、進路の決まった者がどうするかが課題となっていたが有意義な時間になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活記録帳の活用については、一人ひとりに具体的な活用方法の提示が必要だった。 放課後学習では、学習した成果を皆で共有するような取り組みが必要だった。
	生活	<ul style="list-style-type: none"> 最上級生として、ふさわしい言動ができるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 間もなく社会人になることを常に意識させる。また、本校の最上級生として自覚ある姿勢を見せられるよう、学校生活・行事を通して指導する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 時間の経過とともに、最上級生としての自覚が少しずつできてきたように思える生徒が増えてきた中、そうでない生徒もいる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 普段の学校生活や学校行事等で最上級生としての立ち居振る舞いを見せてくれた者が多かったように感じる。特に学校行事では、HRや学校の代表としてふさわしい態度であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校を代表して参加する行事などに参加したとき、ビデオや写真に収め、学年で共有できるような仕組みが必要であった。
研修	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動に還元できる研修を実施する。 本校の魅力を外へ発信し、受験者数の増加を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の状況を客観的に見極め、機を逃さずに研修を実施する。 校内のみならず同窓会、村役場等とも連携をとり、必要に応じて外部講師等を活用しながら教員が外部に発信する能力の向上を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携教員交流会でスマホやネット利用の現状とトラブル防止のための指導方法について研修を行い、資質向上に取り組んだ。また、教員対象の学校説明会を開催し、本校教育の取組について理解を促すとともに、中学生対象の説明会にも積極的に参加している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内外の関係機関と連携し、研修等を実施し、教員の資質向上に取り組んだ。 県内外の関係機関等とも連携、調整して、広報活動に努め、全国募集に5名の申請があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒対応に必要な資質向上の図れる研修を行う。 他府県への広報活動を、関係機関と連携、調整して効果的な方法で展開する。また、中学校の教員に対して、本校教育の取組を説明する機会を設ける。 	
事学校	<ul style="list-style-type: none"> 教育環境を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全環境部、寮等と連携を密にし必要な情報を迅速に入手すると共に、定期的な早視察等により、不良箇所・不具合箇所の早期発見、補修・修繕等に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 普通教室の空調設置工事、寮の煙熱感知器取替工事実施済み。不良不具合箇所の早期発見に努め、予算配当を照らし合わせ、優先順位を決め補修修繕を行っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 普通教室の空調設置工事は工期内に竣工し夏休みから使用開始。小規模修繕工事2件、高圧ケーブル高圧機器取替工事を計画通り実施できた。来年度、普通教室の空調の使用期間が長くなるため、電気使用量の増加が見込まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小規模修繕工事の要望箇所の優先順位について生徒・職員の安全と教育活動に支障がないよう計画的に取り組んでいく。 	